

6.2 教育・研究指導のあり方

進捗状況報告

前期課程、後期課程ともに、2007年度のカリキュラム改編を受け、実効あるカリキュラムとすべく努力を重ねている。また、従来より指導教員には履修登録時により適切な履修指導を求めているところである。

2004年度～2006年度における前期課程、後期課程学生の研究発表（学会での口頭発表、ポスター発表、学・協会誌での論文掲載、紀要類への論文掲載）の実態調査を実施した。この調査に基づき、学生の活発な研究活動、高水準の研究成果の公表を促すために、学生の研究支援の方策を検討してきた。学会発表のための旅費補助、ポスター作成費補助、外国語で執筆する論文やアブストラクトの校閲料補助、研究成果公表の際に生じる著作権料の補助などであるが、ほぼ成案を得る段階にある。予算化が必要な施策なので、慎重に検討を重ねているが、出来れば2008年度秋学期から実施したいと考えている。

学内第三者評価

指導教授の個人的指導のみに頼るのではなく、研究科としての指導と支援が実効的に行えるためにも、学生の研究支援への方策が早急に実現することが望ましい。

なお、学外委員からは以下の意見があった。
大学院生の研究発表の実態調査をもとに研究支援の方策を検討してきた努力は評価できる。